

単元名 武道(剣道)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどを攻防をすることができる。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 剣道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしたり、自己の責任を果たしたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしたり、健康・安全を確保したりしようとする。

標準的な展開例

12300121_001

【準備等】竹刀、防具、手ぬぐい、赤旗、白旗、学習カード、タイマー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1・2年生の学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★基本動作を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○礼儀・作法の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀 ・作法 ○防具の扱い方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・防具の着脱・しまい方 ○基本動作の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・構え ・体さばき <p>2～3 基本打突の練習をする。</p> <p>★基本打突を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本打突の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・素振り ・正面打ち ・左右面打ち ・胴打ち ・小手打ち <p>4～6 しかけ技と応じ技の練習をする。</p> <p>★相手の動きに応じた技を身に付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二段の技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・面一面 ○引き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・引き面 ○出ばな技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・出ばな面 ○払い技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・払い面 ○抜き技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・小手抜き面 <p>7～8 グループで練習し、自分の得意技を身に付ける。</p> <p>★自分の得意技を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習の技の練習をする。 <p>○見取り稽古し、得意技の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を直接竹刀で打つことから、相手を尊重するマナーが重要であることを確認させる。 ・伝統的な行動の仕方を確認させる。 ・防具は正座をして着用させる。 ・構えでは、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構えさせる。 ・体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作を行わせる。 ・基本打突の仕方では、相手に対しての距離を近くしたり遠くしたりして打つように意識させる。 ・基本打突の受け方では、応じ技へ発展するように受けたりするように意識させる。 【評】基本打突の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・相手が打ちやすいように約束事を決めて練習をさせる。 ・最初の面打ちに相手に対応して隙ができたときに面を打たせる。 ・相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打たせる。 ・相手が打とうとして手元を上げた（下げた）ときに隙ができた面を打たせる。 ・相手の竹刀を払ったとき、隙ができた面を打たせる。 ・相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打たせる 【評】しかけ技と応じ技の練習を通して、「知識・技能」を評価する。 ・二人一組の対人で、体さばきを用いてしかけ技の基本となる技や応じ技の基本となる技を高めさせる。 ・相手の構えを崩し、しかけたり応じたりすることを意識させて、効果的な方法を話し合いながら練習させる。 ・グループで話し合い、良かった点などを教え合うようにさせる。 ・自己の技能・体力の程度に応じた得意技を身に付けさせる。 ・気付いた点を学習カードに記入させる。 【評】グループで練習し、自分の得意技を身に付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・正規のルールに近い方法で試合をする。 ・グループ対抗とする。 ・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。 【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。
<p>9 グループで対抗試合をする。</p> <p>★得意技を使って、一本を取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ルールを確認する。 ○試合をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規のルールに近い方法で試合をする。 ・グループ対抗とする。 ・仲間の試合を観察し、よいところを認め合ったり、助言し合ったりさせる。 【評】試合を通して、「知識・技能」を評価する。

○単元のまとめをする。

る。
【評】活動を振り返り、まとめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
【評】単元全体の活動や試合で評価し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

剣道では、勝敗を競う楽しさや喜び味わい、技を高めることによって得意技を身に付け、相手の動きの変化に応じた攻防を展開できるようにする。また、伝統的な行動の仕方を大切にすることや、自己の責任を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全を確保するとともに、見取り稽古の仕方などを学ぶようにさせる。

見取り稽古とは、武道特有の練習方法であり、他人の稽古を見て、相手との間合の取り方や相手の隙について勢いよく技をしかける機会、技のかけ方や武道特有の「気合」などを学ぶことである。